

1 地域紹介

長岐邸



現在も残る七左衛門のことば

七代目当主七左衛門は、9代目佐竹藩主一行をどのようにお迎えしたかを詳細に記録した『文化が己巳御遊野日記』や、天明飢饉の記録『老農土産諸日記』、民間療法『妙薬集』、農業書『農業心得記』など、ほかにもたくさんの日記や書物を書き残しています。

その中に七左衛門が7歳の時に記した『大事代記』というものがあります。これは、小猿郡地方の歴史・風土に関する記録の集大成であり、長岐家の由緒や農林業に関する控えなども書かれています。そこに七左衛門は「肝煎ハ一代ニシテ郷中ハ永久ニ候」という言葉を残しています。我々長岐家当主が代々つとめている肝煎は一代限りだが、我々が支えられている守るべき郷中は永久だという意味です。この七左衛門の言葉は、歴代当主の邸所の柱掛けとして今に伝えられています。

また82歳の時には肖像画を描かせ、子孫へ伝えたい言葉をその下に記しています。肖像画に言葉を記し掛け軸として残した背景には、大事なことだと紙に書き記しても、そのうち粗末に扱われて捨てられてしまうかもしれない、という想いがあっただろうです。

この肖像画は、七左衛門の想いの通り大切にされ、現在でも長岐家に残されています。

最後に、七左衛門が残した言葉をもう一つ

「年寄りにはむつかしくとも若き人 昔のことを語るをば聞け」

平生、衣服は本陣のはかを着ず。羽織袴も名の通り。小会、夏は決平に換る。子孫の者、脱す衣服より諸事の奢りを禁じ、学問もよけれども『農業全書』を常に拝見して、節を失わず。季候を考え、手前の農業を怠らず、人にも給し、『老農道』を折々飢饉などの備えに心がけるべし。及枝と分らんこの言をまさに残すといえども、及枝と分らんことを想し、わが姿を掛け物として残す。

若者たちよ
昔の話は大切だぞ



七代目七左衛門肖像画

肝煎ハ一代ニシテ郷中ハ永久ニ候

1 地域紹介

郡立農林学校



明治 42 年 旧七日市村にできた郡立農林学校の新築落成式



2 体験活動

おさるべ川

探検隊







2 体験活動

岩堰・堰根留







2 体験活動

長岐邸

岩脇の大ブナ

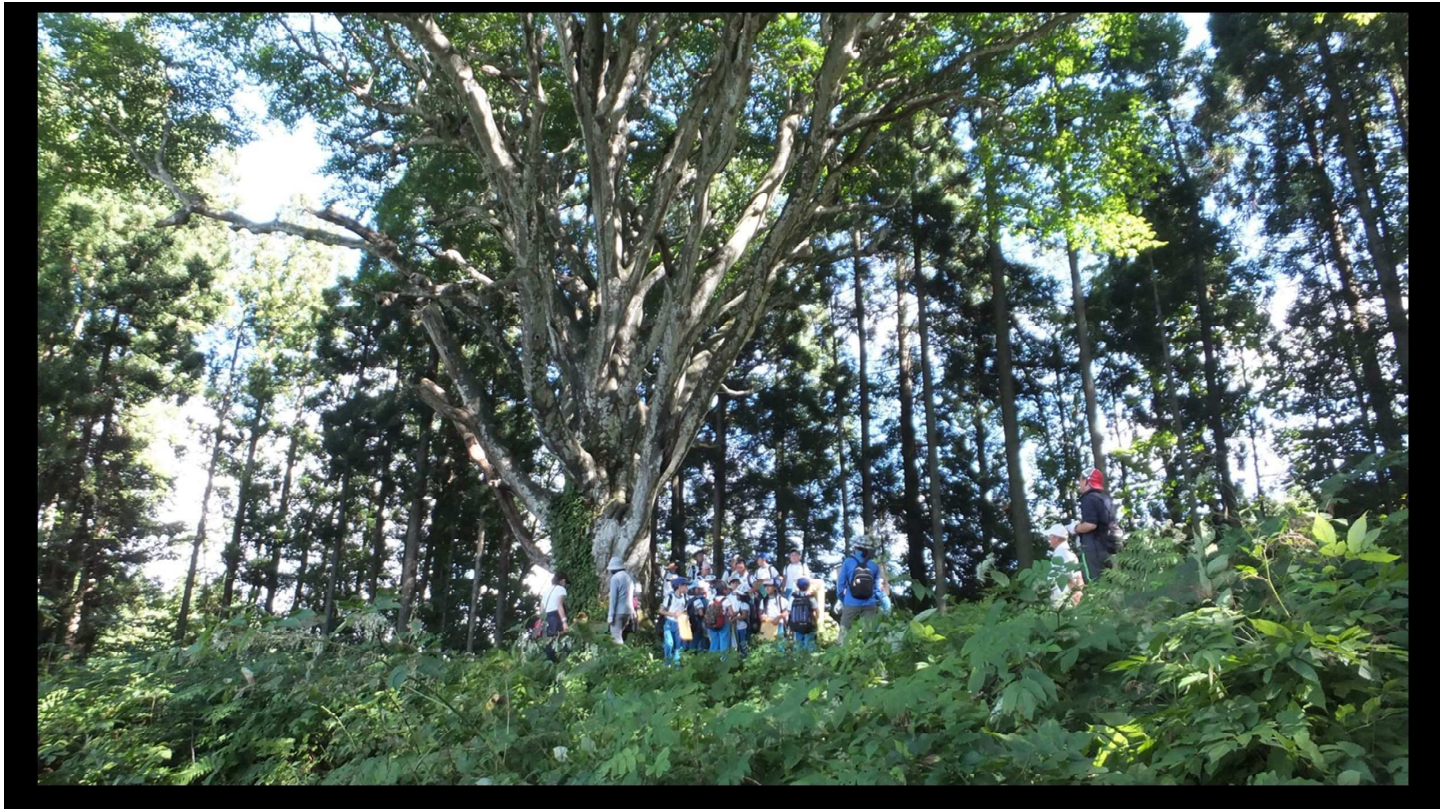




2 体験活動

長岐邸
岩脇の大ブナ







2 体験活動

田んぼの 生き物調査





2 体験活動

葛黒火まつり
かまくら











おわり